

# 関心の高まる「米の作況」について記者懇談会で広く発信！

新米供給への関心が高まるなか、米の作況に関する情報発信と報道機関における農業情勢に対する理解増進に向け、記者懇談会を開催。

## ○ 施策分類

広報

## ○ きっかけ・背景、課題の把握

令和6年8月以降、全国的に米の品薄状況が顕在化したことで新米供給への関心が高まるなか、報道機関を通して県内へ米の作況に関する情報を広く発信すること、そして報道機関における県内の農業情勢に対する理解増進を目的に記者懇談会を開催した。

## ○ 取組の内容

作物統計調査「令和6年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量」について、全国の作況指数は平年並みであったものの、静岡県は気象の変動が重なった結果、全国最下位となったことを丁寧に説明した。また、調査で使用する道具や被害粒の例などを展示し、実際に現物を用いながら調査方法について解説した。さらに、拠点発刊の広報誌や拠点が収集した県内の新規就農者の取組事例についても、報道関係者が取材先を選定する上での参考として情報提供を行った。

## ○ 効果・成果、今後の方向性

記者懇談会には、新聞社3社（記者4名）が参加。後日、静岡新聞と中日新聞において、懇談会時の説明内容を含む記事が掲載された。今後も継続して記者懇談会を開催するとともに、県政記者室への投げ込み等を活用し積極的に報道関係者へ情報提供を行うことで、県内へ農政情報を広く発信していきたい。



▲調査で使用する道具（縦目ふるい）や被害粒・未熟粒を展示し、実物を見ながら説明。

農作物を作ってみよう！（富士市）

お名前	川島 浩将さん（40歳）
就農した時期	2018年9月（就農6年目）
栽培面積と種類	水田 1ha 畑 20a 高圧水 10a
関係	シブシブ就農者、JA
得意な作物	米、アスパラゴス2〜3畝

● 就農したきっかけ  
就農前は、父の会社で営業。結婚後、夫の転勤で地元へ戻り、農業を始めることに決めた。最初は、父の会社で営業しながら、週末に農業を始めた。徐々に、農業に没頭するようになった。現在は、米を中心に、アスパラゴスも栽培している。農業は、自然と向き合うことが好きで、やりがいを感じる。また、地域とつながることが大切だと考えている。

● 就農がもたらした変化  
就農後は、生活リズムが農業に合わせた。朝早く起きるようになった。また、自然と向き合うことが好きで、やりがいを感じる。また、地域とつながることが大切だと考えている。

● 今後の目標  
農業を続け、地域とつながりたい。また、農業の魅力を多くの人に伝えたい。

◀ 拠点が収集した県内の新規就農者の取組事例（拠点HPIに掲載）についても紹介。

## 体制図

